

【臨床・研究】

腰痛外来における高齢者腹部
大動脈瘤の検討

なが	み	はる	ひこ	はな	だ	とも	き	かね	つき	かず	ま
長	見	晴	彦 ¹⁾	花	田	智	樹 ²⁾	金	築	一	摩 ²⁾
いま	い	けん	すけ	お	だ	てい	じ				
今	井	健	介 ²⁾	織	田	禎	二 ²⁾				

キーワード：腹部大動脈石灰化，腰椎X線，腹部大動脈瘤

要 旨

今回2005年1月から2007年8月までに腰痛にて当院へ来院し腰椎単純X線像を撮影した症例876例において単純X線像上，腹部大動脈の石灰化が認められた95例につき検討した。石灰化している動脈の最大横径を測定したところ20 mm－30 mmの症例，また石灰化の形態では点状もしくは局所石灰化が多い傾向にあった。実際の症例では85歳，女性で腰痛にて来院したが腰椎X線にて腹部大動脈壁に点状石灰化を認める腹部大動脈瘤（最大横径が80 mm大）を認めた。本症例はCTにて動脈瘤前壁に壁在血栓が殆どなく破裂の危険性があったため，Y字型人工血管を用いて腹部大動脈人工血管置換術（緊急手術）を施行した。高齢化社会において腰痛，動脈硬化性疾患は相俟って存在することが多い。従って腰痛症にて腰椎X線を撮影した場合は動脈瘤などの潜在疾患の検索も必要であると考えられた。

はじめに

高齢者における動脈硬化性疾患は，冠動脈，脳血管はもとより腹部大動脈瘤をはじめとする大動脈疾患も比較的多い。一般に診療所を受診する高齢者はその程度は別として大動脈の石灰化，拡張，瘤形成などの動脈硬化性病変を合併している

事が決して少なくない。今回，著者は腰痛にて当院へ来院した75歳以上の高齢者において全例腰椎単純X線撮影を行ない腹部大動脈の石灰化を認めた症例につき正面像，側面像から腹部大動脈の石灰化を元に最大径を求め計測し，腹部大動脈拡張，瘤形成の程度を検討した。

対象と方法

2005年1月から2007年8月までの間に腰痛症にて当院を来院した50歳以上の症例で腰椎単純X線を撮影した症例は876例（男性：287例，女

Haruhiko NAGAMI et al.

1) 長見クリニック

2) 島根大学医学部循環器，呼吸器外科

連絡先：〒699-1311 雲南市木次町里方633-1